

幸浦(浅羽南)地区

構成自治会連合会：
浅羽南



地区の南側には美しい浅羽海岸が広がり、米やメロン、イチゴをはじめとした多様な農産物が栽培されています。海岸付近に多くの工場が立地するほか、防潮堤や命山が整備され、海の利活用によるにぎわいの創出に取り組んでいます。

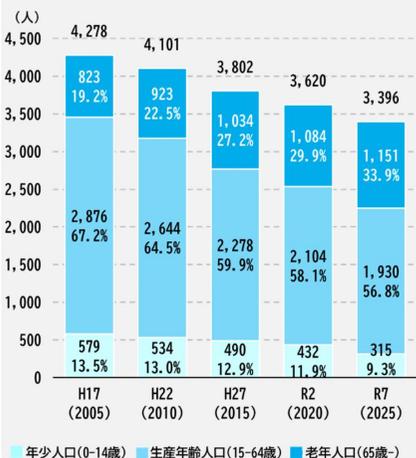
現状 (SWOT 分析「強み」から)

1. 南には浅羽海岸が広がり、一年中釣りやサーフィンなど海のレジャーが楽しめます。
2. 「うみてらす DORI」付近に球技場・体育センター・テニスコートなどのスポーツ施設が集約されています。
3. 保育園・幼稚園・小学校が近くに集まっています。
4. 国道 150 号が東西に通っており、近隣市とのアクセスが良好です。
5. 高さ 12m の防潮堤と命山(4カ所)が整備されており、住民の津波対策に関する意識も高いです。
6. 米、メロン、イチゴ、サツマイモをはじめ多様な農作物が育つ土地柄です。
7. 外国人住民が増加しています。また、世代を超えた住民同士のつながり、結束力が強い地域です。
8. 海岸近くに工場が多く立地し、生産活動が活発に行われています。

課題 (SWOT 分析「弱み」から)

1. 高齢化率が高く、若者人口が減少しているため、消防団員も減少しており、地域防災力の低下が懸念されます。
2. 荒廃農地(耕作放棄地)が多く、農地の維持が課題となるほか、空き家も多い状況です。
3. 都市公園・児童公園が少なく、子どもの遊び場が不足しています。
4. 公共交通の選択肢がなく、移動手段が限られています。また、商業施設が少なく、日常の買い物に不便です。
5. 幸浦地区の認知度向上のため、さらなる魅力発信が必要です。

人口推移



まちづくりの方針図



スローガン 目指すまちの姿

豊かな自然とあふれる笑顔
みんなで盛り上げ未来へつなぐまち幸浦

まちづくりの推進方針

1. 浅羽海岸などの地域資源を活かし、にぎわいと魅力を創出するまちづくり
浅羽海岸や地域の産物などの資源を活かし、人が集まる場づくりを通じて、地域の魅力とにぎわいを創出します。
2. 地域に住む人々が安心して暮らし、共につくるまちづくり
外国人を含むすべての人々が交流し、災害への備えやゆとりある暮らしを大切にしながら、地域の未来をみんなで育てていきます。

地域内の取組

まちづくり協議会主導

- 「うみてらす DORI」でスポーツやキッチンカーなどのにぎわい創出に向けたイベントの開催
- 星の観察会やウミガメの放流会などの自然環境を活用した教室等の開催
- コミセンまつりなどコミセンの利用促進を図ることによる日常的に人が集まる場づくり
- 体験農園や市民農園などによる農地の利活用
- 「幸浦」の伝統行事や文化の継承(秋まつりなど)
- コミセンで外国人との交流会の開催(日本語教室で住民とのつながりづくり)

行政主導

- 「うみてらす DORI」を活用したイベントの開催、地域外の人たちへの情報発信
- 市と地域が一体となった移動手段の確保
- 空き家、農地、荒廃農地を活用した移住者の呼び込み、SNSなどでアピール
- 食品資源の循環活用推進(給食残渣を利用した堆肥化から栽培、販売へ)
- 浅羽海岸クリーン作戦(海岸清掃)の実施による海岸愛護活動
- ◇ うみてらす DORI 運動施設整備・改修事業
- ◇ 市道東同笠山線整備事業
- ◇ サンドバイパス促進事業
- ◇ 国道 150 号バイパス整備促進事業
- ◇ 消防団 浅羽第5分団車庫建設事業

○ まちづくり協議会が主導する取組 □ 協働による取組 ◇ 行政が主導する取組

地域のみなさんの声 (取組を進める上で参考となる意見など)

- 幸浦という名前を後世に残していきたい。方言は、この地域の魅力だと思う。「〜だもんで」など
- 野菜残渣の堆肥化事業を、市として組織化し、仕組みづくりを考えてほしい。
- 地区の課題である過疎化、海岸侵食、空き地・空き家への対策を検討してほしい。
- 海岸や地域の農産物などの地域資源をはじめ、「うみてらす DORI」を活かして、日常的に人が集まる場づくりを進めたい。
- 出来るだけ近くの高い所へ避難するための案内看板が必要である。
- 廃棄物処理のヤード等の土地利用の規制や誘導について、規制や取締り等に関する条例が必要ではないか。
- 外国人の定住促進など、共存・交流も必要ではないか。
- 防潮堤や命山を PR するとともに、命山の公園化など、平時の有効活用ができないか。
- 海はつながっているので、近隣市と連携して、広域で沿岸部の活性化が図れるとよい。
- 浅羽地域だけではなく、市内北部など、海が身近でない地区からも訪れてほしい。